

甲状腺機能の異常

特に女性はチェックを

堀越 医院

院長 堀越 健太郎 先生

甲状腺は、首の前側の甲状軟骨(のどぼとけ)下部の皮下にある臓器です。大きさは約4センチ厚さ1センチ、重さは15グラムと小さな臓器で、アルファベットのHのような形をしています。軟らかいので通常では皮下で触れることはできませんが、病気でその大きさや硬さが変わると触れることができるようになります。

甲状腺は、昆布やワカメなどの海草に多く含まれるヨードを材料に甲状腺ホルモンを造り、血液中に供給しています。甲状腺ホルモンは人体の発育や成長を促すとともに、全身の新陳代謝を活発化させる働きがあり、非常に重要なホルモンです。さらに脳からの調節も受けていて、分泌のバランスを保っています。

甲状腺の病気には機能の異常や腫瘍などがありますが、多いのは甲状腺機能の異常です。分泌される甲状腺ホルモンの量が、わずかに多くても少なくとも快適な生活を送ることができません。

甲状腺ホルモンが過剰に分泌され、機能が強くなりすぎる状態を甲状腺機能亢進症と呼びますが、代表的なのがバセドウ病です。過剰な甲状腺ホルモンのため、全身の新陳代謝が活発になり過ぎ、暑がり、手の震え、動悸、脈が速くなる、発汗が多い、微熱、体重減少、精神的に落ち着きが無くなりイライラする、などの症状が現れます。また甲状腺が腫れる、目つきがきつくなる、眼球の突出などの症状もみられます。

逆に、甲状腺ホルモンの分泌が少ないために機能が低下する状態を甲状腺機能低下症と呼びますが、代表的なのが橋本病です。不足した甲状腺ホルモンのために全身の新陳代謝が低下し、寒がり、疲れやすい、むくむ、皮膚が乾燥する、体温が低い、脈が遅い、気力の低下や眠気、甲状腺の腫れなどの症状が現れます。また精神活動の低下により、うつ病と間違われやすい場合もあります。

これらの甲状腺機能疾患は決して珍しいものではなく、日常の診療で比較的好く見られる病気といえます。また、女性に発症が多いのが特徴です。

甲状腺疾患には腫瘍などもありますので、視触診検査はもちろん重要ですが、甲状腺機能についての検査は採血をしてTSHとフリーT4の値を調べれば、おおよその機能状態が分ります。特に女性で甲状腺機能の異常が思い当たる症状の人(男性も同様)は、甲状腺機能をチェックすることをお勧めします。